

# 令和二年度冬季隊訓練



(発行所) 11特OB会  
 (連絡先) 札幌市南区 真駒内17番地  
 第11特科隊 広報援護室  
 TEL (011)-581-3191 内線2645  
 (印刷) 札幌造型合同会社

## 主な記事

二面 令和二年度特科隊冬季山岳機動訓練(応用)等  
 三面 令和二年度幹部自衛官任官者・令和二年度認定指導官の紹介  
 四面 本部管理中隊・第一中隊紹介  
 五面 第二中隊・第三中隊紹介  
 六面 離任中隊長・転出者・新着任中隊長・転入者紹介

## 【隊長コラム】

### 隊のアイデンティティ「たけなわ」考



隊には「たけなわ」の名称で長く親しまれ、伝統として継承されているマークがある。北海道にあまり馴染みのない「竹」がシンボルなのか？ 制定時の解説は伝わっているものの「なぜ」は今となっては謎である。



しかしこのマーク、第十一特科連隊時の昭和五十四年に隊員から募集・採用以来、現在まで四十年以上も受け継がれてきたもので、きわめて大切なものである。

旅団は、第十即応機動連隊の新編に伴い、機動旅団化改編し、特科隊も、新たな時代の火力戦闘を担うべく日夜練磨に邁進中である。

旅団も昨年、旅団長指導のもと「士(サムライ)」をアイデンティティと位置付けた。我々特科隊としても伝統を継承しつつ、将来への発展を祈念して、今一度この「たけなわ」の意義に思いを巡らせてみた。

まず「竹」であるが、北海道に馴染みがないというより現代の我々には馴染みがないであろう。古来より竹は「木でも草でもない」特殊性が「神秘の力」独特の空洞が「生命力を蓄える」とされ、アイヌ文化でも神事の楽器の素材として重用されてきたものである。更に中国古典に「一日不可無此君(一日も此の君無かるべけんや、竹が無くしては、一日も暮らせない」と詠まれるほど竹は、時の文化の象徴として多くの著名人に愛されたものである。

ちなみにこの一文より「竹」は「此君(しくん・このきみ)」との異名・異称をもつ。そして竹林が整備され景勝地、文化の象徴として愛された。

竹の民俗学的・宗教儀礼的神秘性の由来を尊重しつつ、なぜ竹なのか？ ということより、竹の意味する内容を我々が、時代の流れをくみ取り発展させ、今の機動旅団特科隊たる心意気を新たに見出し、見つめなおすことが最良であると思に至った。

そして古典に習い「竹・此君(しくん)」の「し」に十一の「士」を当て「士君」とし「君子」の如く規律・団結・士気を保持した部隊の理想と考えた。

加えて竹は、節目正しく、大地に根付き代々生え、変わり成長することから、北の丘陵・厳寒の真駒内の地に力強く根付く強靱性、持続性・生命力、柔軟性・多様性ある「火力骨幹部隊を目指す」ことをイメージした。

これらの竹の意義をより象徴的に表現し、部隊・隊員に周知するために「一戦不可無士君(此君)」の「我々特科(士君)無くしては、戦いは成り立たない」のメッセージを伝統的マークの左右に、改めて配置し、過去から未来への伝統の継承を誓うこととした。

隊は、陸上自衛隊総隊七十周年、機動旅団化の節目を経て、諸先輩の築かれた伝統を継承し、この隊のアイデンティティを将来に向け、さらに発展させ、輝かしい伝統の礎となしていきたいと思っている。

## 隊長要望事項

### 冬にコロナに(あらが) 抗い続けよ!

隊は、令和三年二月二十日(土)から二月二十三日(火)までの間、北海道大演習場(島松地区)において、令和二年度冬季訓練を実施した。本訓練は、積雪寒冷の状況下において、戦闘行動を遂行できる練度を維持・向上させる目的で行われ、旅団の陣地攻撃における特科隊の行動について一夜二日の連続状況下のなか、一〇式雪上車及び軽雪上車を使用した陣地の偵察及び占領、警戒・自衛戦闘、非実射連携訓練のほか、宿営及びスキー機動を行った。

中隊訓練では、山地におけるスキー行進及び雪上車を使用したジョーリングにより、冬季機動能力の練度を向上させるとともに、冬季の特性に応じた射撃陣地への進入、気温及び雪質を考慮した射撃陣地の築城、また、中隊陣地における警戒組織の構成等を行い、自衛戦闘能力の向上を図った。訓練最終日には、各中隊が創意工夫した施設等を相互に研修し、多くの知識や技術を共有する実りの多い訓練となった。



▲陣地進入する火砲



▲一〇式雪上車でのジョーリング



▲軽雪上車による先行班の偵察

# 令和二年度 特科隊冬季山岳機動訓練 (応用)

隊は、令和三年一月二十五日(月)から一月二十八日(木)までの間、赤井川村キロススキー場及び同周辺山岳地域一帯において、令和二年度特科隊冬季山岳機動訓練(応用)の生地訓練を実施した。本訓練は、冬季山岳機動要員の練度の維持及び指導者の育成を図る目的で行われ、十九名が参加し、ロープ技術、重装備によるスキー機動、斜面滑降技術の練成を行った。

一月二十五日(月)には、赤井川村キロススキー場周辺山岳地域において、重装備を携行したスキー機動で、訓練予定地域に前進して、ロープを使用した訓練及び要救助者の搬送訓練を行った。訓練参加者からは本訓練参加にあたり「事前に真駒内駐屯地や駐屯地近傍演習場で訓練を実施し、入念な準備ができた」「冬季山岳機動及び遭難者の救出・救助に必要な技術練度の維持・向上を図ることができた」等のコメントがあり、災害対処に対する真摯な取り組み姿勢を確認できたほか、雪山に対する準備や知識の必要性、隊員個々の技術、相互の連携及びリスクマネジメント等、冬季における山岳機動の重要性を再認識した実りある訓練となった。



▲重装備を携行した山岳機動訓練



▲キロススキー場における機動訓練



▲ストレッチャーによる要救助者搬送

# 令和二年度第二次旅団部隊 スキー指導官練成集合訓練

隊は、令和三年一月七日(木)から一月十日(日)までの間、真駒内駐屯地、札幌国際スキー場及び北海道大演習場(西岡地区及び真駒内射撃地区)において、令和二年度第二次旅団部隊スキー指導官練成集合訓練を担当実施した。

本訓練は、部隊スキー指導官として必要な識能及び技能の向上を図り、資格の再認定に資する目的で行われ、第十一特科隊のほか第十即応機動連隊、第十八普通科連隊、第十一戦車隊、第十一高射特科隊、第十一偵察隊、第十一施設隊、第十一飛行隊、第十一旅団司令部付隊及び第十一音楽隊の隊員計三十八名が参加した。

一月七日(木)の訓練開始式では「指揮官に対する助言者として部隊スキー指導官の役割を各人が部隊で果たせるよう、知識と技能を修得するとともに、隊員一人ひとりがコロナウイルス感染拡大防止を意識し、感染防止を含む安全管理に万全を期せ」と担任官訓示を受け、指導部、専修員ともに新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら訓練した。また、一月八日(金)と九日(土)札幌国際スキー場において「スキー技術及び指導法」並びに「スキー検定法」、一月十日(日)北海道大演習場西岡地区において「曳行スキー及びアキオ曳行」「遭難者の救出法」の訓練を行った。

本訓練間、一件の事故も無く、訓練参加者全員がそれぞれ、部隊スキー指導官としての必要な識能及び技能の向上を図るとともに、部隊スキー指導官の資格の再認定を受け、訓練を修了した。

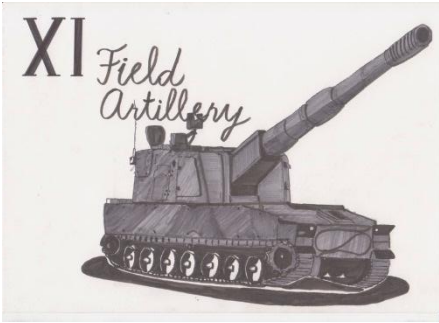


▲アキオ曳行



▲遭難者救出

# ～令和二年度自衛官幹部任官者の紹介～



作：多田三尉



## 砲兵魂 挑戦

第一中隊  
福重はるな



第一中隊 福重三尉  
三月十三日幹部任官

お世話になっております、第一中隊福重三尉です。好きな食べ物はいくら丼、推しはV6の岡田准一です。改めてよろしくお願いたします。

真駒内に着隊し、あつという間に二ヶ月が過ぎました。日々充実した教育を受けさせていただき、北方の特科隊員としての第一歩を実感することができました！本当にありがとうございます。

私の初級幹部として最初の一年の抱負を、「挑戦」といたしました。初心者ではありますが、今年ばかりは「なんでもやります！やってみます！」の精神で、たくさん挑戦（そして失敗）したいと思えます。見守り、そして指導していただければ幸いです。よろしくお願いたします。

やつと部隊に慣れたところにBOC入校ということで、皆さんに忘れられてしまわないか心配です。十一特科隊の看板を背負って頑張りますので、どうか帰りを待っていてください。目指せ敏腕FO！

第三中隊 多田三尉  
三月十三日幹部任官

第三中隊多田三尉です。兵庫に住んでいた頃は釣りとサイクリングを趣味にしていたが、冬の北海道では、新たな趣味を見つけたいと思えます。

さて、北方の想像を絶する寒さの洗礼を受け第十一特科隊へ着隊し、二ヶ月が経ち、早くも三尉任官の時を迎えました。幹部候補生学校のような教育機関とは異なる生活の中、一人の自衛官として、候補生という身分からの独立を求められているということを、ひしひしと感じる日々であります。

自衛隊の門を叩いて一年と経たぬ新米の私が幹部自衛官としての地位と役割を担わせていただくということに、不安を抱えておりますが、毎日の教育等で多くを教えて下さる先輩方に特科隊員としてのイロハや識能を叩き込まれるとともに、何事も失敗を恐れずに取り組み、「挑戦・挑め！果敢に」の精神で隊の皆様の信頼を得ることが出来る幹部になりたいと思えます。

# ～令和二年度認定若き指導官の紹介～

### 栄誉を称えて

#### 部隊格闘指導官

第二中隊 露木三曹



常に目標を持ち、日々格闘指導官として、心身を鍛え、部隊に貢献します。引き続き頑張ります。

#### 上級・部隊スキー指導官

第三中隊 渡邊二曹 (上級)



上級スキー指導官として、部隊に貢献出来る様に、精進します。今後もし宜しくお願いたします。

第一中隊 江原二曹



部隊スキー指導官としてのスタートラインに立つ事が出来ました。まだまだ未熟なので引き続き練成します。

第三中隊 北村三曹



念願のスキー指導官認定を頂きました。冬季戦闘行動について、少しでも隊に貢献できるように努力します。

第三中隊 櫻井三曹



諸先輩の方々の熱い指導により、無事に指導官認定を頂きました。隊に貢献できる様に頑張ります。

## 令和3年度自衛官等募集内容

- ・一般幹部候補生  
資格：22歳以上26歳未満の者
- ・一般曹候補生  
資格：18歳以上33歳未満の者
- ・自衛官候補生(男子)  
資格：18歳以上33歳未満の者  
受付期間：年中行っております。  
試験日：受付時にお知らせします。

防衛省自衛隊札幌地方協力本部南部地区隊  
〒005-0008 札幌市南区真駒内17番地  
携帯 070-6589-0123  
広報官 藪本1曹(元第11特科隊)





# 本部管理中隊 <LOVE♥BONDS>



## 各中隊の紹介



# 精強 第一中隊

我々第二中隊は、村田中隊長のもと日々楽しく、また厳しく業務に励んでいます。  
今年度もこの姿勢を崩さず、すべての看板を取る勢いで精進していく所存です。よろしくお祈りします。



村田中隊長



指揮班



通信班



令和二年度実射競技会優勝



山野一曹 警戒中



高森一曹

哀愁の一枚

中隊長

## 第三中隊



石原二尉 ベテランです



松岡二士 やんちゃです



吉川候補生時代



北村候補生時代



大田一士 前が見えせん



山崎三曹 楽しそう

里深三曹拉致？ FO競技会



祝 優勝



花原組 集合完了

### 第七代 第三中隊長 早坂三佐 離任



三等陸佐 早坂 剛  
新任地 東北方面總監部 (仙台)

### 三月転出者

#### 隊本部

一等陸尉 柏木 佳親  
部隊訓練評価隊 (北富士) へ

#### 本部管理中隊

陸曹長 星川 祐二  
自衛隊体育学校 (朝霞) へ

二等陸曹 吉田 直之  
岩見沢駐屯地業務隊 (岩見沢) へ

一等陸曹 守谷 剛  
第二特科連隊 (旭川) へ

#### 第一中隊

二等陸尉 小門 佑輔  
第十即応機動連隊 (滝川) へ

二等陸曹 朝倉 直俊  
俱知安駐屯地業務隊 (俱知安) へ

二等陸曹 内山 健二  
第五特科隊 (帯広) へ

#### 第二中隊

二等陸曹 清田 直樹  
西部方面特科連隊 (えびの) へ

二等陸曹 阿武 啓太  
第一陸曹教育隊 (東千歳) へ

#### 第三中隊

三等陸尉 岩松 悠真  
第三普通科連隊 (名寄) へ

二等陸曹 野田 宏和  
第二特科連隊 (旭川) へ

新任地での活躍を  
祈念いたします。

### 新着任

### 第八代 第三中隊長 江嶋三佐 着任



三等陸佐 江嶋 宏次  
前勤務地 富士学校 (富士)

### 三月転入者

#### 隊本部

一等陸尉 飯田 好貴  
第十師団司令部 (守山) より

#### 本部管理中隊

一等陸曹 橋本 政志  
第二特科連隊 (旭川) より

二等陸曹 稲田 公毅  
特科教導隊 (富士) より

三等陸曹 三島 悠太  
装備実験隊 (富士) より

三等陸曹 矢野 卓  
第一特科隊 (北富士) より

#### 第一中隊

三等陸曹 力田 淳幹  
西部方面特科連隊 (玖珠) より

#### 第二中隊

三等陸曹 中村 慎也  
西部方面特科連隊 (久留米) より

#### 第三中隊

二等陸曹 鈴木 琢也  
第一特科隊 (北富士) より

これからよろしく  
お願いいたします。



### OBの方へ連絡とお願い

#### 一 入門証について

現在、期限切れの入門証をお持ちの方で今後も必要とされる方は、更新手続きをお願いいたします。

手続きに関しては、「特科隊広報・援護室」にて行います。

電話〇一一五八一―三一九一  
(内線二六四七) 担当 嶋田

#### 二 叙位及び死亡叙勲に関する手続きについて

自衛隊員として勤務され、在職中の功績と一定の要件が満たされた方は叙勲の対象となります。特に死亡叙勲は、ご遺族からの申し出により手続きを進める事になります。が、手続きの期間が限られており、この期間を過ぎますと叙勲が受けられなくなります。万が一ご本人がご逝去された場合は、死亡日を含め五日以内に最寄りの防衛省各機関、部隊等へ連絡下さい。また、ご家族皆様へお伝えいただけますようお願い申し上げます。

#### 三 その他

第十一特科隊隊舎一階において第十一特科連隊時代の歴史を展示した広報展示室を開設しております。ご訪問の際にはお気軽にお立ち寄りください。

電話〇一一五八一―三一九一  
(内線二六四七) 担当 天野